

御嶽山の火山活動解説資料

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・情報センター

＜噴火警戒レベル 3（入山規制）が継続＞

御嶽山では、火山灰を噴出するような噴火が継続しており、引き続き火山活動は高まった状態で推移しています。

9 月 27 日の噴火前から連続して発生している火山性微動は、10 月 7 日に入ってから、検知できない程度の大きさになっています。

【防災上の警戒事項等】

御嶽山では、火口から 4 km 程度の範囲では大きな噴石の飛散や火砕流に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流の可能性がありますので注意してください。

○ 活動状況

・ 噴煙の状況（表 1）

噴煙の高さは本日（10 日）15 時 20 分現在、火口縁上約 200m で南に流れています。

これまで、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した上空からの観測では火山灰の噴出を確認しており、また、山麓での観測でも降灰を確認しています。その後も噴煙の状況に大きな変化がないことから、引き続き火山灰を噴出しているものと推定しています。

・ 火山ガス（二酸化硫黄）の状況（図 1、表 1）

昨日（9 日）に山麓で実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は、1 日あたりおおよそ 400～500 トン（速報値）で、これまでと大きな変化はありませんでした。

・ 地震・微動の発生状況（表 1、図 2）

噴火発生の 11 分前の 9 月 27 日 11 時 41 分頃から連続して発生していた火山性微動は、振幅の増減を繰り返して継続していましたが、10 月 7 日に入ってから、検知できない程度の大きさになっています。

火山性微動の振幅の増減は、山頂付近浅部での火山活動の消長を表しているものと考えられますが、火山性微動の振幅が小さくなったことが必ずしも火山活動の低下を表すものではありません。また、微動の振幅は、火山活動以外の要因により増大することもあります。

・ 地殻変動の状況

地殻変動観測データに特段の変化はみられません。

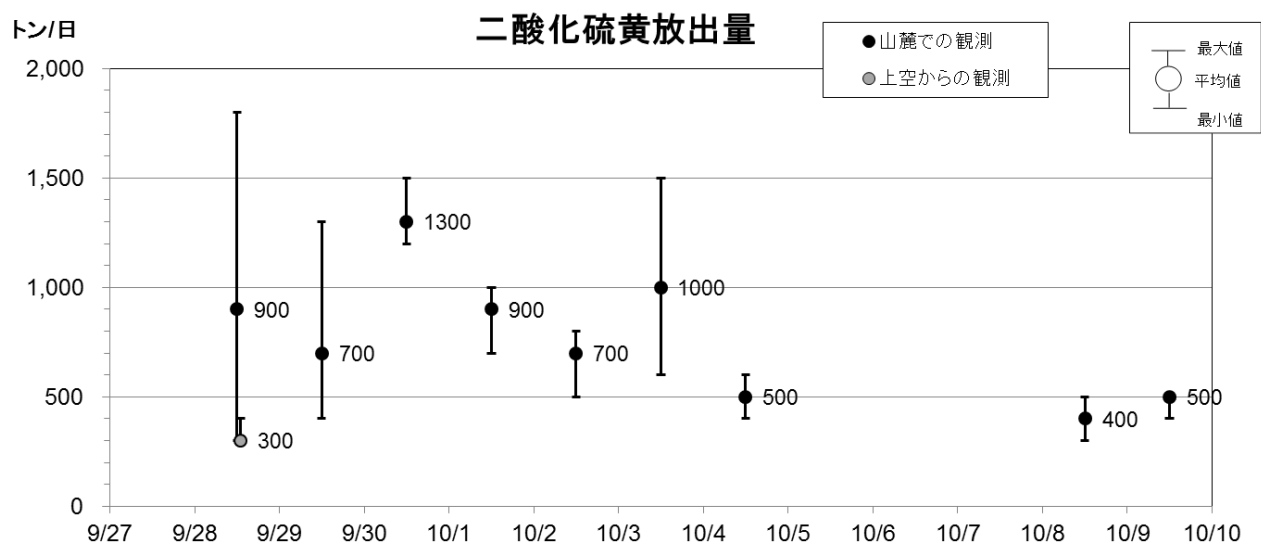


図 1 御嶽山 火山ガス（二酸化硫黄）観測結果（9 月 28 日～10 月 9 日）

- ・ 昨日（9 日）に山麓で実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は、1 日あたりおおよそ 400～500 トン（速報値）で、これまでと大きな変化はありませんでした。

10 月 9 日（昨日）16 時 10 分発表の解説資料中の図 2 において、8 日の観測値の表示位置に誤りがありましたので、訂正します。

表 1 御嶽山 2014 年 9 月及び 10 月（9 日まで）の火山活動状況

9 月	噴火回数	火山性地震回数	火山性微動回数	山頂火口の噴煙の状況 ¹⁾		備 考
				日最高(m)	噴煙量	
1日	0	4	0	×	×	
2日	0	0	0	—	—	
3日	0	0	0	×	×	
4日	0	0	0	×	×	
5日	0	0	0	×	×	
6日	0	1	0	—	—	
7日	0	2	0	×	×	
8日	0	5	0	—	—	
9日	0	10	0	—	—	
10日	0	52	0	—	—	
11日	0	85	0	×	×	
12日	0	10	0	—	—	
13日	0	7	0	—	—	
14日	0	8	0	—	—	
15日	0	27	0	—	—	
16日	0	18	0	×	×	
17日	0	10	0	—	—	
18日	0	24	0	—	—	
19日	0	3	0	—	—	
20日	0	10	0	—	—	
21日	0	17	0	—	—	
22日	0	3	0	×	×	
23日	0	10	0	—	—	
24日	0	9	0	—	—	
25日	0	8	0	×	×	
26日	0	6	0	×	×	
27日	1	483	1	×	×	11時52分頃噴火発生。 南西側に火砕流流下、北東山麓を中心に降灰。
28日	継続	131	継続	800	3	噴火継続。二酸化硫黄放出量300～1800トン/日。
29日	継続	53	継続	400	2	噴火継続。二酸化硫黄放出量400～1300トン/日。
30日	継続	56	継続	400	2	噴火継続。二酸化硫黄放出量1200～1500トン/日。
合計	1	1052	1			

10 月	噴火回数	火山性地震回数	火山性微動回数	山頂火口の噴煙の状況 ¹⁾		備 考
				日最高(m)	噴煙量	
1日	継続	35	継続	400	2	噴火継続。二酸化硫黄放出量700～1000トン/日。
2日	継続	16	継続	×	×	噴火継続。二酸化硫黄放出量500～800トン/日。
3日	継続	27	継続	×	×	噴火継続。二酸化硫黄放出量600～1500トン/日。
4日	継続	25	継続	300	1	噴火継続。二酸化硫黄放出量400～600トン/日。
5日	継続	18	継続	×	×	噴火継続。
6日	継続	23	継続	×	×	噴火継続。
7日	継続	13	*	500	2	噴火継続。
8日	継続	15	*	300	1	噴火継続。二酸化硫黄放出量300～500トン/日。
9日	継続	6	*	×	×	噴火継続。二酸化硫黄放出量400～500トン/日。
合計	1	178	1			

* 検知できない程度の大きさ

1) 噴煙の高さ及び噴煙量は日最大値（噴火時以外は定時観測（09 時・15 時）の値）です。

噴煙量は以下の 7 階級で観測しています。

1：極めて少量 2：少量 3：中量 4：やや多量 5：多量 6：極めて多量

7：噴煙量 6 以上の大噴火で、噴煙が山体を覆う位に多く噴煙の高さは成層圏まで達したと思われるもの

—：噴煙なし ×：不明

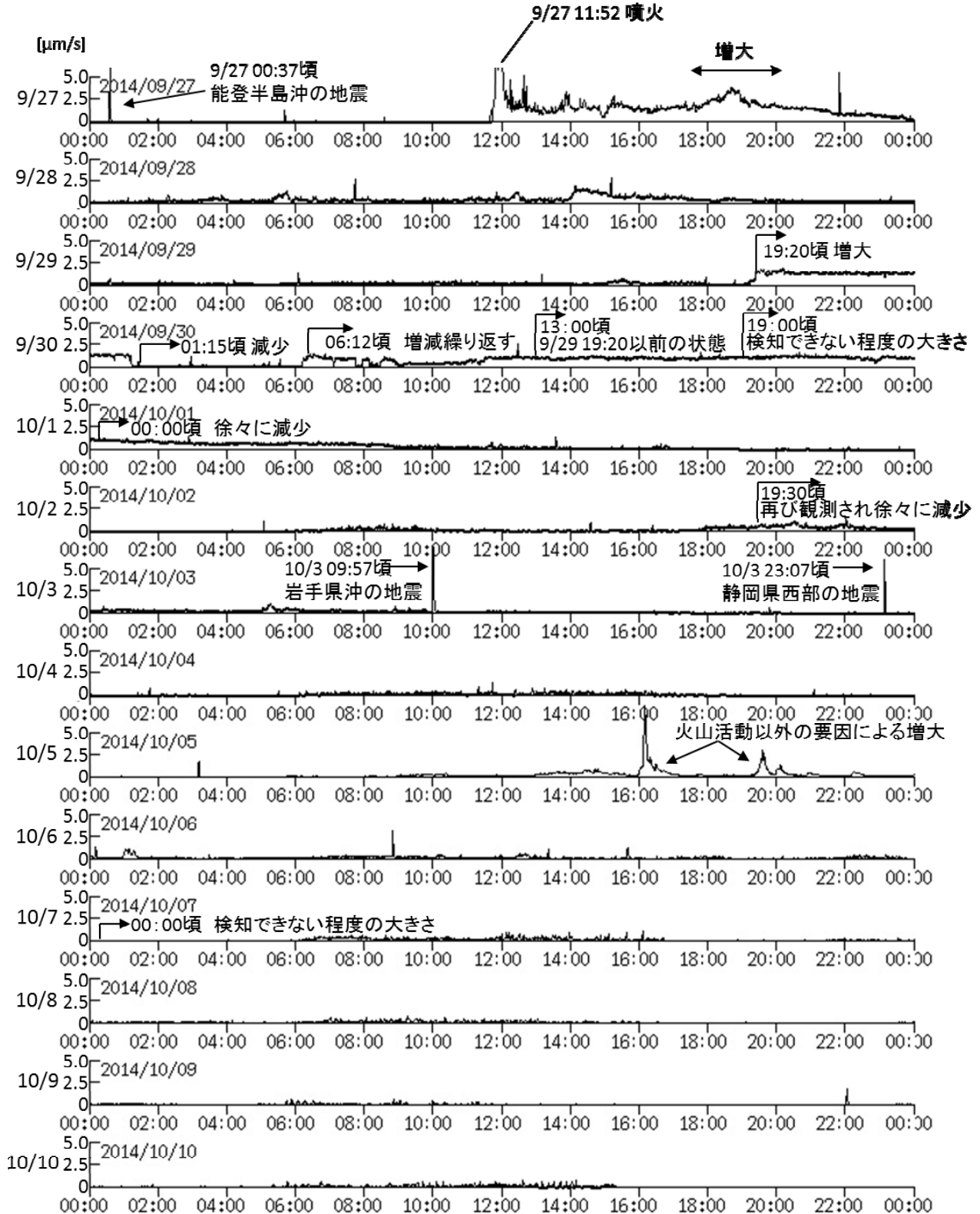
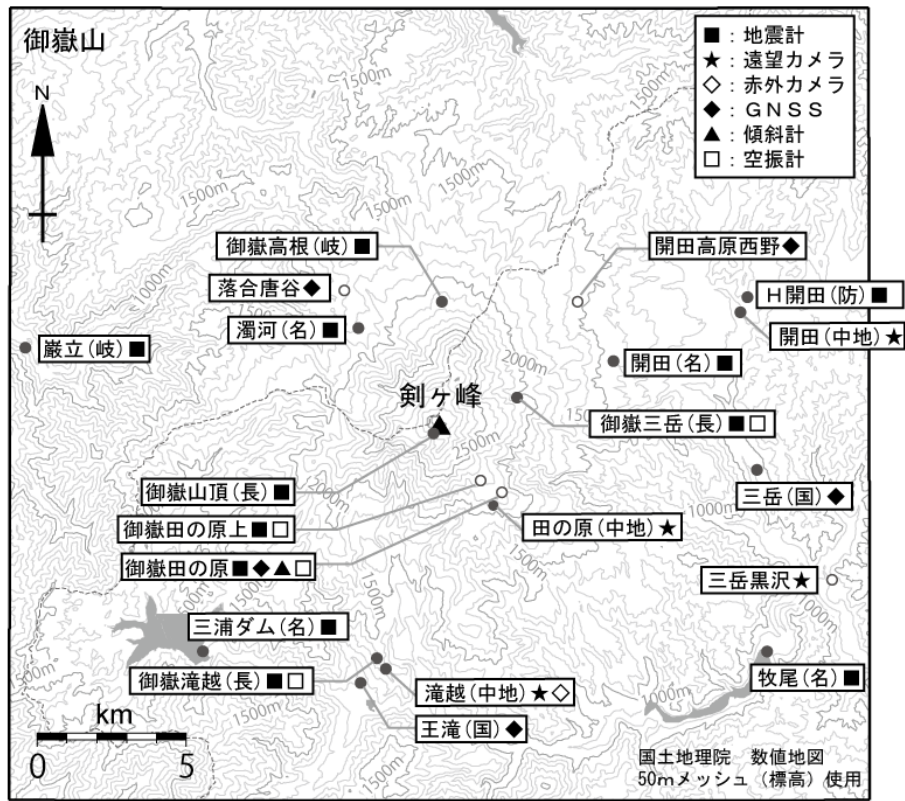


図2 御嶽山 田の原上観測点（剣ヶ峰南東約2km）の上下動地震波形の1分間振幅平均値の推移
（2014年9月27日00時～10月10日15時20分）

- ・連続して発生している火山性微動は、増減を繰り返して継続していましたが、10月7日に入ってから、検知できない程度の大きさになっています。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院、（中地）：中部地方整備局、（防）：防災科学技術研究所、（名）：名古屋大学、
（長）：長野県、（岐）：岐阜県

図 3 御嶽山 観測点配置図